

# びわ湖東北部地域連携協議会 事業計画 (2022 年度)

2022 年 6 月制定

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした  
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム

## 1. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業概要

滋賀県内のびわ湖東北部地域においては、個々の大学・短期大学と自治体・経済産業界等との間で様々な連携・協働が試みられ、一定の成果を上げている。今後さらにびわ湖東北部地域の活性化のためには、これまでの連携・協働をより発展させ、社会の持続可能な開発目標である SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」を活用しながら、これまで以上に自治体や経済産業界等との緊密な協働と情報共有のもと、各校の特徴と強みを発揮し、総合的かつ多面的な取組を展開することに大学・短期大学・自治体・産業界等が合意をしたことから地域プラットフォーム事業を形成する準備が進められてきた。2018年9月にSDGsを活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標とする、彦根・長浜地域の滋賀大学・滋賀県立大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・長浜バイオ大学・滋賀県・彦根市・彦根商工会議所・長浜市・長浜商工会議所の10機関による彦根・長浜地域連携協議会（以下、「協議会」という）が組織された。そして協議会の事業実施に向け、文部科学省2018年度 私立大学等改革総合支援事業・タイプ5に申請を行い、2018年度より採択されることとなった。事業のスタートとなる2019年度において、協議会による事業として「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業（以下、「プラットフォーム事業」という）」が展開していった。プラットフォーム事業では、大学改革を推進するとともに、地域における知の基盤としての役割を果たし、特徴や強みを生かした地域貢献や地域社会で活躍する人材の育成及び豊かな地域社会の構築に産官学が連携して戦略的に取り組むことを柱としている。そのため地域内における高等教育の充実・発展の方向性を包括的に示すための中長期計画を策定している。この中長期計画に基づき多種多様な事業（協議会等を含む）に取り組み、当初の事業計画の想定を超えた具体的な活動を行うことができた。2020年度からは、これまで地域の活性化に資する活動において協力していただいている米原市に本協議会へ加盟いただき、地域のネットワークが強化することができた。これに伴い、協議会名称を「びわ湖東北部地域連携協議会」に改め、「2020年度 びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業年間計画（ロードマップ）」をもとに、活動指標の見直しを含めた事業計画を定め、中長期計画の実現に向け活動を行った。新型コロナウイルス感染症の流行状況下でありながらも、連携機関の創意工夫により、各WGにおいて前年度の事業を継承・発展させ、73件の活動を行うことができた。2021年度では、前年度の経験を生かし、対面での活動とIT技術を活用したオンラインでの活動を積極的に組み合わせることで、中長期計画の達成に向け、これまでの事業を継承・発展させるとともに、地域課題の解決に向けた新規事業に取り組むことができた。2022年度は、これまでの活動の中長期計画終了後も持続可能な取組として展開できるように、事業計画の段階から持続可能な地域貢献につながる成果が得られるようにプラットフォーム事業を計画し実行している。

## 2. びわ湖東北部地域連携協議会 事業概要及び活動指標（2022年度）

### （1）2022年度 事業概要

プラットフォーム事業では、びわ湖東北部地域の課題を共有した上で、以下の4つの将来像を中長期計画の根幹に置き、SDGsを活用することで、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を目指している。

- 1) 自治体・地域経済界に開かれた高等教育環境のある地域
- 2) 誰もが安心・安全に住み続けることができる地域
- 3) 地域住民・観光客等を引き付ける地域資源のある地域
- 4) 若年層が魅力を感じる豊かな産業基盤のある地域

これらはそれぞれ別個の独立したものでなく、本事業が設定する課題分野の個々の取組が総合的かつ有機的に連携することで実現される将来像と捉えている。

### （2）運営体制

プラットフォーム事業を円滑に進めるにあたり、協議会を運営する事務局を置き、中長期計画の根幹に据えている4つの将来像の実現にむけ、以下3つの事業に対応したワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置している。

- 1) ワーキンググループ A (WG-A)：産業振興に向けた産官学連携事業
- 2) ワーキンググループ B (WG-B)：地域コミュニティの活性化事業
- 3) ワーキンググループ C (WG-C)：地域を担う次世代人材の育成事業

さらに、以上の3つの事業の進捗状況を管理する事務局を置き、事業活動の情報発信を行うワーキンググループ (WG-D)：広報・HP 管理を置くことにしている。

また、事業を行うにあたり、以下の事業運営の方針を意識した事業計画を立て活動している。

#### <2022年度 事業運営の方針>

- 1) 大学と地域が一体となった事業を計画し推進することで、協議会の成果を地域に還元できるようにする。
- 2) 新規事業提案は、びわ湖東北部における地域課題の解決に寄与する取組であることを明確にする。
- 3) 事業計画は、継続事業・新規事業に関わらず、SDGs への関連を明確にする。
- 4) 本事業終了後も持続可能な取組を実施していく。
- 5) 協議会の取組がさらに広域へ周知できるような広報・取組を実施する。

### (3) 2022年度の具体的な目標設定

プラットフォーム事業で行うWGの活動に対して、事業最終年度までに達成を目指す達成目標(KGI: Key Goal Indicator)及びKGIの達成するために年度ごと1年間の取組成果として目指すべき活動指標(KPI: Key Performance Indicator)を定め、年度単位で活動の進捗状況进行评估している。具体的な達成目標(KGI)及び活動指標(KPI)は以下の通りとなる。

#### 【WG-A: 産業振興に向けた産官学連携事業】

##### < 達成目標 (KGI) >

- 1) 産官学連携研究をきっかけとした3件以上の事業化または商品化を行う。
- 2) 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を2019年度比で10%以上改善する。

##### < 活動指標 (KPI) >

- 1) 産官学研究について、最終年度までに10件以上を実現する。
- 2) インターンシップ、採用支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を2019年度の参加実績を基準に10%以上の増加を毎年維持する。
- 3) UIJターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所へのプラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間20名以上を実現する。

#### 【WG-B: 地域コミュニティの活性化事業】

##### < 達成目標 (KGI) >

- 1) 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を2018年度比で40%増加させる。
- 2) 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する。

##### < 活動指標 (KPI) >

- 1) 地域住民向けの公開講座を毎年10講座以上開講する。
- 2) 最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを5件以上定着させる。
- 3) 産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。
- 4) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

#### 【WG-C: 地域を担う次世代人材の育成】

##### < 達成目標 (KGI) >

- 1) 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を2018年度比で20%増加する。

- 2) びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上増加する。

〈 活動指標 (KPI) 〉

- 1) SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
- 2) 単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
- 6) 共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

上記の目標をもとに 2022 年度の各ワーキンググループの活動は次ページ以降に詳細を記載している。

### 3. 2021年度 びわ湖東北部地域連携協議会 事業活動

#### (1) 事業概要及び数値目標

##### A. 産業振興に向けた産官学連携事業

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現	産官学連携研究をきっかけとした、3件以上の事業化または商品化  就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を2019年度比で10%以上改善する(2023年度評価)。	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。	産官学連携事業 ・地域産業界に向けた研究紹介 ・産官学共同事業推進助成	・産官学共同研究について、最終年度までに新たに10件以上を実現する。
		大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。	インターンシップ、採用活動支援事業 ・採用活動支援 ・就職活動支援	・インターンシップ、採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を2019年度の参加実績を基準に10%以上の増加を毎年維持する。
		産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行うUIJターン推奨事業の事業活	UIJターン推進事業 ・ローカルメディアによる移住促進事業	・UIJターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度

		性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。		までに年間 20 名以上を実現する。
--	--	-----------------------------	--	--------------------

B. 地域コミュニティの活性化事業

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を2018年比40%増加させる。  地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する。 (2023年度評価)	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。	生涯学習拠点整備事業 ・びわ湖東北部地域生涯学習講座(教養コース・専門コース)	地域住民向けの公開講座を毎年10講座以上開講する。
		自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。	地域住民に向けた健康増進支援事業 ・人生100年時代 健康いきいきプロジェクト	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを5件以上定着させる。
		プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。	まちづくり支援事業 ・災害に強いまちづくりプロジェクト ・SDGsでつなぐ学生の地域連携プロジェクト ・まちの魅力発信プロジェクト	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。
		・地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。	ネットワーク推進事業 ・キャンパスSDGsびわ湖大会	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

C. 地域を担う次世代人材の育成

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
今後のびわ湖 東北部地域を 担う人材の確保  地域課題等を テーマにした 共同教育事業 の確立	地域内の複数校 が連携した共同 教育事業数を 2018 年比で 20% 増加。(2023 年度 評価)  びわ湖東北部地 域連携協議会に 参画する連携機 関からの地域内 における共同教 育事業に参加す る人数を 2019 年 比で 20%以上の 増加(2023 年度評 価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施、及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。</li> </ul>	SDGs をテーマとした共同講義事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 単位互換科目</li> <li>「近江での SDGs の実践」</li> <li>単位互換事業</li> </ul> 単位互換提供科目：「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江のくらしとなりわいー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>単位互換提供科目：「滋賀論」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。</li> <li>単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。</li> </ul>	幼・小・中・高校生への学習支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>びわ湖東北部地域文化・芸術推進プロジェクト</li> <li>びわ湖東北部地域不登校児童・生徒プロジェクト</li> <li>びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト</li> </ul> 地域内進学促進事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>びわ湖東北部地域 動画で推進地域内進学</li> </ul>	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。</li> </ul>
		びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につな	地域人材活性化支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 地域人材養成事業</li> <li>保健医療福祉分野の人材育成プロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。</li> </ul>

		<p>がるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>	<p>グラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト</li> </ul>	
		<p>びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD・SD）を設ける。</p>	<p>共同 FD・SD 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発</li> <li>・中等教育懇話会</li> <li>・共同 FD・SD 事業</li> <li>・高等教育のグラウンドデザインに関する検討会</li> </ul>	<p>共同 FD・SD 研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。</p>

①2022 年度 びわ湖東北部地域連携協議会 WG-A 事業計画

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-1 地域産業界に向けた研究紹介
事業概要	<p>産学連携による研究や事業を進めるためには、大学がどのような研究をしているのかを産業界に知ってもらうことが第一ステップである。しかし、各大学が研究者紹介などの冊子を作成してはいるものの、その内容は専門的で難解であるとの声が多い。この問題を解決するために 2019 年度から平易な表現を用いて、本プラットフォーム加盟大学共通の研究紹介ハンドブックを作成して地域産業界に配布してきた。</p> <p>今年度も引き続き、産学連携のきっかけをつくるために、「びわ湖東北部地域の産学連携ハンドブック Vol. 4」を作成し、連携機関を通じて産業界・地域内に配布する。</p>
事業計画	<p>「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol. 4」の作成          ハンドブック作成準備のための打合せ (2022 年 6 月)          連携大学へのハンドブックの執筆依頼 (2022 年 7 月)          ハンドブックの完成・配布 (2022 年 9 月)</p>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-2 産官学共同事業推進助成
事業概要	<p>WG-A の達成目標である、びわ湖東北部地域での新しい事業化または商品化を達成するためには、産官学共同事業または共同研究の件数を増やすことが必須である。2019 度に、びわ湖東北部地域における産官学共同事業を推進することを目的にプラットフォーム連携事業推進助成を創設した。</p> <p>今年度も引き続き、事業化・商品化を目指す本協議会加盟機関が関わる共同事業・共同研究グループに対して募集と審査を実施し、資金的援助及びプラットフォーム加盟機関による人的・物質的援助を提供する。</p>
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム連携機関への募集と選定 (2022 年 7 月末まで)</li> <li>採択グループへの助成開始 (2022 年 8 月)</li> </ul>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1① 採用活動支援【学生就職面接会】
事業概要	<p>びわ湖東北部地域の企業と学生とのマッチング機会を設けるため、各自治体・商工会議所と共同で合同就職面接会、就職活動セミナーを開催する。</p> <p>&lt;就職活動セミナーの実施&gt; 学生の参加意欲を向上させ、有意義な就職面接会に繋げるため、就職活動セミナーを学生就職面接会の直前に実施する。</p> <p>&lt;合同就職面接会の開催&gt; 企業ごとのブースを設置し、企業の採用担当者又は経営者から学生に自社の説明や将来ビジョンを説明し、企業と学生とのマッチングを図る。</p>
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催時期：夏頃</li> <li>開催場所：長浜バイオ大学体育館</li> <li>参加対象：学生) 令和 5 年 3 月卒業予定の学生、卒業後 3 年以内の求職者 企業) 地域内に就業場所を有する企業 30 社程度</li> <li>開催 2 か月前 企業募集</li> <li>開催 1 か月前 学生募集</li> <li>開催月 学生募集 合同就職面接会の開催</li> </ul>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1② 採用活動支援【業界研究会】
事業概要	<p>学生にびわ湖東北部地域の企業の魅力を発信し、若者の地域への就職、移住定住を促進することを目的として、各自治体・商工会議所と共同で業界研究会を開催する。当該研究会では地域の企業が事業の魅力等を直接伝えることで、学生等が地域で働くイメージを具体化し、就職動機が高まることをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活直前セミナー 参加対象：参加学生</li> <li>業界研究会 (30 分×3 セッション) <ul style="list-style-type: none"> <li>企業の採用担当者又は経営者から学生に、自社の説明や将来ビジョンを説明。セッションを 3 回に区切って参加者がブースを巡る。 (1 ブース 30 分×3 回)</li> </ul> </li> <li>模擬面接会 (30 分) + フィードバック (20 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>参加企業と本番さながらの模擬集団面接会を行った後、学生にフィードバックを行う。学生に対し、就職活動に向けて経験を先取りするチャンスを提供する。</li> </ul> </li> </ul>
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催時期：令和 5 年 12 月～2 月</li> <li>参加対象：令和 6 年 3 月卒業予定の学生</li> <li>開催 3 か月前 企業募集</li> <li>開催 2 か月前 学生募集</li> <li>開催 1 か月前 業界研究会直前セミナー開催</li> <li>開催月 業界研究会の開催</li> </ul>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1③ 採用活動支援【学生と企業のマッチング事業】
事業概要	<p>各自治体・商工会議所と共同し、びわ湖東北部地域の企業のインターンシップ、採用情報等の継続的な紹介や企業見学会を実施し、地域の企業の魅力を知り、就職意欲を高めるとともに、学生と企業とのマッチングを図る。</p> <p>(就職情報等発信)</p> <p>学生と企業のマッチングプラットフォームとなるウェブページを作成し、企業情報やインターンシップ情報、採用情報などの就職関連情報等を掲載する。</p> <p>(企業見学会)</p> <p>バス等により、地域内の高校生や大学生が、びわ湖東北部地域の企業を見学する。</p>
事業計画	<p>(就職情報等発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施時期：令和 4 年 6 月～令和 5 年 3 月</li> <li>6 月 プラットフォームの設計検討</li> <li>7 月 情報収集、ウェブページの作成</li> <li>8 月～ 企業紹介記事等の掲載、随時更新</li> </ul> <p>(企業見学会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催日時：企業見学会 令和 4 年 8 月</li> <li>参加対象：学生)令和 6 年 3 月卒業予定の高校生約 20 人、大学生約 30 人 企業)地域内に就業場所を有する企業 16 社程度</li> </ul>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1④ 採用活動支援【採用力強化プログラム】
事業概要	<p>地域の企業が就職市場の把握や戦略的に雇用を行う能力を養い、採用基盤を強化することを目的として、各自治体・商工会議所と共同し情報交換会やセミナー等を開催するなど、企業の採用戦略の立案をサポートする事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生就職面接会事前セミナー 参加企業 (30 社程度)</li> <li>大学の就職支援担当者と企業との情報交換会 1 回 (20 社程度)</li> </ul>
事業計画	<p>実施日時:令和 4 年 6 月～12 月に実施予定 参加対象:地域の企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏頃 学生就職面接会事前セミナーの開催</li> <li>11 月 大学の就職支援担当者と企業による情報交換会の開催</li> </ul>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1⑤ 採用活動支援【地域内企業との雇用・就職ニーズ検討会】
事業概要	<p>一昨年度から始めた産官学が連携した企業の採用活動支援の一環として、大学・商工会議所・自治体・びわ湖東北部地域の企業の各担当者が参加する検討会を行う。</p> <p>多様化する就活生の行動様式などの理解が深化できるよう、講師を招いて就活生の多様化する行動の背景などの解説を行った後に、大学・商工会議所・自治体・びわ湖東北部地域の企業の各担当者が参加するグループワークを行う。そしてグループワークを通じて、就活生の行動特性を踏まえたそれぞれの立場から採用支援を充実させる方策を検討し、互いに情報共有を深める機会とする。</p>
事業計画	<p>2022 年 7 月：講師、詳細の決定</p> <p>2022 年 8 月：参加事業所募集</p> <p>2022 年 9 月：実施</p>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2① 就職活動支援【留学生・キャリアガイダンス】
事業概要	<p>びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍している、日本企業への就職を目指す留学生等を対象とした就職ガイダンスを実施する。ガイダンスは下記のとおり予定している。(オンライン形式でのガイダンス実施も検討)</p> <p>① 学部 1 年生の留学生対象ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本で働くための就職活動について</li> <li>在留手続きに係る就活への影響について</li> <li>雇用実績のある事業所(採用担当)から留学生の採用ポイントについて</li> <li>留学生及び卒業生によるインターンシップ、就職活動体験談</li> <li>留学生、卒業生へのインタビュー</li> </ul> <p>② びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍の留学生対象ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本で働くための就職活動について</li> <li>留学生の就職と在留資格について</li> <li>雇用実績のある事業所(採用担当)から留学生の採用ポイントについて</li> <li>留学生及び卒業生によるインターンシップ、就職活動体験談</li> <li>留学生、卒業生へのインタビュー</li> </ul>
事業計画	<p>① 5 月 準備のための打ち合わせ開始</p> <p>6 月 講師依頼、協力企業等依頼</p> <p>7 月 ガイダンス実施</p> <p>② 8 月 準備のための打ち合わせ開始</p> <p>9 月～11 月 講師依頼、協力企業等依頼</p> <p>12 月 ガイダンス実施</p>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2② 就職活動支援【パネルディスカッション+合同企業説明会】
事業概要	<p>◆パネルディスカッション (第 1 部) + 合同企業説明会 (第 2 部)</p> <p>○目的 就職活動に取組む学生が、幅広い業界の企業と交流することで、業界・企業についての視野を広げ、自己の可能性を探る。</p> <p>○パネルディスカッション (第 1 部) 10:00~11:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ: 彦根・米原・長浜で働く魅力について</li> <li>・内容: 自分に合った仕事は何かや働くことの意義を考え、自分の進むべき道を模索する機会とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>☞業種を知る</li> <li>☞働くことによる社会貢献とは</li> <li>☞地元だからできるキャリアとは</li> <li>☞ワークライフバランスを考える</li> </ul> </li> <li>・パネリスト: 企業、商工会議所、自治体、大学関係者+コーディネーター</li> </ul> <p>○合同企業説明会 (第 2 部) 13:00~16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施方法: オンラインで実施する</li> <li>チャット機能でアイスブレイクを行う <ul style="list-style-type: none"> <li>☞オープニング 全体の流れ等の説明</li> <li>☞企業紹介 (プレゼン 2 分+入替 1 分) ×10 社</li> <li>☞ブレイクアウトルーム機能を使い、10 ブースに分かれ、各ブースにて企業担当者による企業説明を行う。学生は各自説明を聞きたい企業を 4 つ選択する (選択をコーディネーターに委任することも可能)。</li> </ul> </li> </ul> <p>「セッション (20 分) + 振り返り (5 分)」①~④</p>

	<p>☞まとめ（アンケート回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業数：10社程度（彦根・米原・長浜の地元企業に依頼）</li> <li>◆その他：第1部、第2部共に運用は業者に委託する。</li> </ul> <p>事業に係るチラシ作成を予定、連携先等への配布は1月</p>
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開催日時：2023年2月中旬 10:00～16:00</li> <li>○対象学生：びわ湖東北部地域連携協議会加盟大学・短期大学の学生</li> <li>○委託業者：株式会社いろあわせ（予定）</li> <li>○計 画：2022年10月 活動のためのミーティング</li> <li>2022年11月 イベント打ち合わせ</li> <li>2022年12月 チラシ等校正</li> <li>2023年1月 広報</li> </ul>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化</li> <li>就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン推進事業)
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-3-1 地域の社会課題を解決する起業家育成事業
事業概要	<p>地域が抱える社会課題の解決を目指す起業家を育成するには、アントレプレナーシップ教育が不可欠である。現在、大学等において個別に関連プログラムが設けられている例もあるが、一部にとどまっている。そのため、地域全体で社会起業家の育成を図るための取組をスタートしたい。</p> <p>本事業の受講者は、各大学の学生をはじめ、びわ湖東北部地域や県外から UIJ ターンされた方々も対象に実施することとし、県が設置している SOHO ビジネスオフィスを有効活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① アントレプレナーシップ基礎講座の開催</li> <li>② 地域の社会課題を発見するためのフィールドワークの実施</li> <li>③ 課題解決に向けたビジネスモデルの作成支援</li> </ul>
事業計画	<p>5月 事業全体の打ち合わせ 基礎講座プログラム検討</p> <p>6月 各大学等を通じて受講者募集</p> <p>7月～ 基礎講座開講</p> <p>8月～ フィールドワーク実施</p> <p>10月～ ビジネスモデル作成支援</p> <p>12月 成果発表</p>

②2022 年度 びわ湖東北部地域連携協議会 WG-B 事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1 びわ湖東北部地域生涯学習講座① (教養コース) 市民教養講座
事業概要	<p>地域住民向けの公開講座を継続して開催する。5 大学・短期大学の知的資源を活用し、多様なテーマを開催することで、地域住民の学びのきっかけづくりや知的好奇心を満たすことを目指している。</p> <p>今年度は新型コロナ対策および受講者数増への取り組みとして、会場型 (対面) を原則とし、後日視聴に対応するため同時収録を行い、動画 (オンデマンド) 配信を併せて行う。各大学 2 名の教員が講師となり合計 10 講座を開講する。</p>
事業計画	<p>[講座] 質疑対応を含め 90 分程度</p> <p>[講師] 長浜バイオ大学 2 名、滋賀文教短期大学 2 名、滋賀大学 2 名、滋賀県立大学 2 名、聖泉大学 2 名</p> <p>[会場] 協議会参画の県または市の施設</p> <p>[予約] 会場型は事前申込制とし動画視聴は任意で簡単な属性の登録を求める。</p> <p>[その他] 講座会場および日程については調整させていただく場合があります。</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した、幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる
対応 SDGs 番号	3, 4
取組事業 No.	B-1 びわ湖東北部地域生涯学習講座② (専門コース) 子育て応援講座
事業概要	<p>コロナ禍で、仲間づくりの目的も兼ねた母親教室や両親学級の集団指導が中止され、また妊婦健康診査時や出産の夫立ち合いも中止され、さらには家族の面会制限などの措置が行われている。その結果、妊婦にとって不安が増大し、社会的孤立によって母子やその家族の健康が損なわれる可能性もある。また、子育てに関連する相談先やイベントの縮小、制限により、地域の子育て支援が困難な状況になっている。今年度は、コロナ禍で増える妊婦や育児期の母子の孤立を防止し、家族のサポート体制を強化するための 5 講座を実施する。可能な限り対面形式とし、状況に応じてリアルタイムオンライン形式に変更して実施する。</p> <p>[事業内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オレンジリボン運動 (別科助産・助産学生担当) <ul style="list-style-type: none"> <li>・多賀大社 (多賀町) の腹帯祈願の日 (5 月 21 日 (日) 戌の日) とコラボし、児童虐待防止を呼びかける企画を展開する</li> <li>・参加者 (腹帯の安産祈願に来場した妊婦およびその家族)</li> </ul> </li> <li>2. 子育て応援講座 (4 回シリーズ) <ol style="list-style-type: none"> <li>①妊婦のためのマインドフルネス体験会・交流会 (母性看護学領域担当) (6 月 9 月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦と夫 (パートナー) が、安心した妊娠期を過ごせるために、マインドフルネス体験会と対象者間の交流会を開催する</li> </ul> </li> <li>②ベビーマッサージ (母性看護学領域担当) (7 月 11 月)</li> </ol> </li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦や産後の母親に対し、ベビーマッサージ体験会を行う。</li> </ul> <p>③助産師学生によるパパママクラス（別科助産・助産学生担当）（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の過ごし方、出産の流れや呼吸法、沐浴や抱っこの仕方など</li> <li>・参加者については定員（10組）を設け予約制で実施する。</li> </ul> <p>③（パパママクラス・交流会）（母性看護学領域担当）（9月以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の過ごし方、出産の流れや呼吸法など</li> <li>・マインドフルネス体験会</li> <li>・赤ちゃんへの贈り物、夫婦の絆を深める作成など</li> </ul> <p>④グランママリフレッシュ教室（別科助産担当）（12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てを支援する祖母世代を対象に更年期・老年期を健やかに過ごすための交流会・ヨガ教室</li> <li>・参加者は定員（10名）を設け予約制で実施する。</li> </ul> <p>[参加者のリクルート方法]</p> <p>近隣産科施設、子育て支援拠点、市町保健センターにチラシの配布を依頼、地域広報誌などへの掲載も依頼する</p>
事業計画	<p>《別科助産・助産師学生担当事業》</p> <p>4月 1. オレンジリボン運動 講座企画・媒体作成 広報活動実施</p> <p>5月 1. オレンジリボン運動実施（5月21日、多賀大社）アンケート実施 2-③パパママ講座 講座企画・広報活動（チラシ作成・配布）</p> <p>6月 2-③パパママ教室 講座企画、動画作成・広報活動（チラシ作成・配布）</p> <p>7月 2-③パパママ教室 広報活動、講座企画・広報活動（チラシ作成・配布）</p> <p>8月 2-③パパママ講座開催 アンケート実施</p> <p>9月 まとめ（前半）</p> <p>1. オレンジリボン学生の学びまとめ、評価 2-③パパママ講座アンケートまとめ、評価</p> <p>11月 2-④グランママヨガ教室 講座企画・広報活動</p> <p>12月 2-④グランママヨガ教室開 アンケート実施 2-④グランママヨガ教室アンケートまとめ、評価</p> <p>3月 まとめ（全体）</p>

	<p>《母性看護学領域担当事業》</p> <p>5月 イベント詳細決定（日時・内容等） 参加学生募集、チラシ作成・広報活動</p> <p>6月 2-①マインドフルネス体験会開催 アンケート実施</p> <p>9月 2-①マインドフルネス体験会開催 アンケート実施 2-③パパママクラス開催 アンケート実施</p> <p>12月 2-③パパママクラス開催 アンケート実施</p> <p>3月 まとめ</p> <p>次年度以降も継続的に実施する。</p>
--	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1 びわ湖東北部地域生涯学習講座③(専門コース) 市民土曜講座
事業概要	<p>長浜バイオ大学の特色を生かした公開講座を地域住民向けに実施する。2022 年度は、例年通りの講座を全 5 回の実施予定。また、新たな試みとして、受講者からの要望が多かったバイオサイエンス「基礎講座」の実施を検討する。</p> <p>会場は原則として長浜バイオ大学を会場とし、2020 年度より実施している動画公開は 2022 年度も協議会 HP、長浜バイオ大学 HP にてオンデマンドで公開する。これは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点だけではなく、若年層の公開講座への参加を促進するためである。</p>
事業計画	<p>○7～12 月の期間中に全 5 回実施予定</p> <p>○講師：5 月中に選定予定</p> <p>○講師謝金：15,000 円 (びわ湖東北部地域連携協議会事業に採択された場合のみ)</p> <p>○講座時間：90 分</p> <p>○会 場：長浜バイオ大学 大講義室 1 (定員：先着 80 名予定)</p> <p>○申し込み：申込フォームと FAX にて受付</p> <p>○そ の 他：受講料無料、動画公開は協議会 HP に掲載</p> <p>新聞折込を活用したチラシ配布を実施</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大による開催可否、受講人数制限の判断は、実施 1 週間前までに長浜バイオ大学の新型コロナウイルス感染対策方針に基づき判断する。実施が困難な場合には動画のみ公開する。</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1 びわ湖東北部地域生涯学習講座 ④(専門コース)リフレッシュ講座
事業概要	子育て、文学・映画上映などに加え、本年度は、地域に伝わる伝統文化についても取り上げ、幅広い層に関心をもってもらえるような講座を開催する。家庭・地域全体での生涯学習活動の推進を目的とする。
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ユネスコ無形文化遺産 長浜曳山まつり×SDGs ～今だからこそ若者につなぎたい祭りの知恵～ 2022 年 8 月 11 日(木) 募集定員 50 名 会場：曳山博物館 [講師：滋賀文教短期大学 非常勤講師 中島誠一]</li> <li>2) はじめての、ひさしぶりのピアノ 入門編 2022 年 7 月 2 日・16 日・30 日(土) 募集定員 8 名 会場：滋賀文教短期大学翠湖館 音楽実習室 [講師：滋賀文教短期大学 子ども学科講師 藤山あやか]</li> <li>3) はじめての、ひさしぶりのピアノ 初級編 2022 年 9 月 10 日・24 日・10 月 8 日(土) 募集定員 8 名 会場：滋賀文教短期大学翠湖館 音楽実習室 [講師：滋賀文教短期大学 子ども学科講師 藤山あやか]</li> <li>4) 活動弁士から紐解く日本の「映像文化」活弁士&amp;ピアノ生演奏付無声映画公演(上映映画は今後決定) 2022 年 10 月 23 日(日) 募集定員 100 名 会場：余呉文化ホール [講師：滋賀文教短期大学 国文学科講師 河村悟郎 活動弁士：大森くみこ ピアノ：鳥飼りょう(無声映画振興会)]</li> <li>5) 六条殿の 13 人～『源氏物語』を 13 倍楽しむ 2022 年 11 月初旬 募集定員 30 名(予定) 会場：余呉まちづくりセンター(予定) [講師：滋賀文教短期大学 国文学科准教授 池田大輔] 同時開催：『源氏物語』企画展覧会 2022 年 10 月下旬～11 月初旬 会場：滋賀文教短期大学 期間中にギャラリートークも開催</li> <li>6) 世界のおもちゃで遊ぼう 2022 年 11 月 23 日(水) 募集定員 20 名 会場：滋賀文教短期大学翠湖館 あすなろホール [講師：有限会社 キッズいわき 代表取締役社長 岩城敏之]</li> </ol>

	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 15
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト ①中高年の健康増進ウォーキング
事業概要	<p>“健康的な生活を送るには、食事・運動・睡眠などの生活習慣が重要なことはよく知られているが、社会交流によって、好奇心を持つ、学ぶ、探求する等、「生活を楽しむ」ことも重要な要素である。このプロジェクトでは、ウォーキングによる健康増進・森林浴・地元を歩いて魅力発見・参加者との交流等、日常生活に刺激と潤いを与えるイベントとして『ぶらり地元ウォーキング』を実施する。いずれもビワテクのコースとして登録し、継続的な健康増進活動を支援する。次年度には、大学探検コースとして、講義・学食・施設見学等も検討している。</p> <p>『ぶらり地元ウォーキング 2.0』</p> <p>1) 地域の魅力を探検！(地場産業・観光・歴史探訪)</p> <p>①長浜コース ②米原コース ③彦根コース</p> <p>④余呉湖俳句歴史探訪 ⑤土倉の森と歴史ウォーキング</p> <p>※④⑤は中級レベル</p>
事業計画	<p>6月 日程・コース・見学先・内容・ガイド等の決定 学生企画案・キーワードの検討</p> <p>7月 募集準備</p> <p>8月 募集開始・広報へ掲載・しらがメール</p> <p>9月下旬~11月下旬 イベント①、②、③、④、⑤</p> <p>12月 アンケートまとめ</p> <p>1月~ 次年度の検討”</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 4, 11
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト②モルックを中心としたユニバーサルスポーツ体験会およびモルック大会の実施
事業概要	<p>1. 趣旨</p> <p>「モルック」というユニバーサルスポーツが最近メディアにも取り上げられ、注目を集めている。モルックはチームや個人で木の棒を的に投げるゲームであり、“誰でも”、“どこでも”、“いつでも”できるユニバーサルスポーツである。そして、子どもから高齢者、障がい者など世代や様々な状況を越えて交流でき、楽しむことができるのも特徴である。近年、年齢や性別、人種など、多様な属性を持った人々が交流し、それぞれの能力を発揮することが求められている(ダイバーシティ)。また、コロナ禍で身体を動かすことが減っており、世界的に不活動による心身の健康問題が懸念されている。</p> <p>そこで、本事業は、モルックを中心としたユニバーサルスポーツ体験会と年間 2 回のモルック大会(びわこカップ)を開催し、地域の人々の出会いと交流の場の創出、そして、心身の健康づくりと地域における多様性理解の促進に貢献する。</p> <p>2. 学生の参画</p> <p>体験会とモルック大会については、プロジェクト演習(押岡ゼミ・木村ゼミ・多胡ゼミ)を履修している学生・教員が中心となって企画や広報戦略・当日の実施を行う。また、学生達のアイデアを企画に取り入れながら、進めていく。</p> <p>3. 地域住民の参加(参加促進)</p> <p>びわ湖東北部の地域住民や他大学(5 大学)の学生にむけて案内チラシを作成し、参加を呼びかける。地域住民へのチラシの郵送先は、これまでの聖泉大学の公開講座やびわ湖東北部地域連携協議会に参加頂いた方などを中心</p>

	に郵送する。自治体が発行する広報誌なども活用する。また、域内の市町や大学周辺地域の福祉施設等に出向いて体験会を行うなどして広報活動に努める。
事業計画	<p>5～6月：体験会・モルック大会の具体的な内容を策定</p> <p>7月：広報戦略の策定</p> <p>8月：広報活動とイベントの準備</p> <p>9月：第1回モルック大会</p> <p>11月：第2回モルック大会＋体験会の実施</p> <p>12月：振り返り</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 4
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト③光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり
事業概要	<p>「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」</p> <p>【目的】学生を含むびわ湖東北部地域住民に対して、健康を脅かす生活習慣病やがん、認知症に対する関心をもち、世界各地で取り組まれている健康づくり活動への一歩を踏み出す支援を行うために 3 つのプロジェクトを実施する。今年度は次年度以降の 3 市展開を前提に事業実施にあたる。</p> <p>【プロジェクトの主な内容】</p> <p>各プロジェクトの内容は、対象者への①情報提供（教育）、②情報ツール（ラジオ、ホームページや Facebook）または、展示を用いた啓発活動、③域内外で光と色による情報発信を行う。</p> <p>【プロジェクト 1】認知症高齢者とともに「オレンジリング」</p> <p>目的：認知症高齢者への対応について考える</p> <p>①認知症サポーター養成講座の実施</p> <p>②情報ツールによる発信：誰でもできる認知症の人への対応について</p> <p>③オレンジライトアップ</p> <p>【プロジェクト 2】乳がん患者とともに「ピンクリボン」</p> <p>目的：乳がん患者への支援について考える</p> <p>①がん検診推進グッズの展示やがん患者への支援（タオル帽子作成ワークショップ）</p> <p>②情報ツールによる発信：がん患者やその家族への思いと支援</p> <p>③ピンクライトアップ</p>

	<p>【プロジェクト3】糖尿病を予防する「ブルーサークル」</p> <p>目的：糖尿病予防を毎日の生活改善から考える</p> <p>①糖尿病予防に関する啓発物の展示</p> <p>②情報ツールによる発信：気軽に取り組める糖尿病予防の食生活</p> <p>③ブルーサークルライトアップ</p>
事業計画	<p>会場：①②③聖泉大学内</p> <p>6月 連携先との日程等（①②③）詳細の決定後，活動する学生募集 ライトアップに関する周辺自治区への依頼と周知</p> <p>7月 【1・2・3】詳細なスケジュールを決定する（日時，関係者役割，広報， 予算）</p> <p>8月 【1】開催について配信（チラシ・HP）関係者と事前打ち合わせ 【2】詳細なスケジュールを決定する</p> <p>9月 【1】①②③9/21（実施時期は連携先と要調整） 【2】開催について配信（チラシ・HP）関係者と事前打ち合わせ 【3】詳細なスケジュールを決定する</p> <p>10月 【2】①②③10/1（実施時期は連携先と要調整） 【3】開催について配信（チラシ・HP）関係者と事前打ち合わせ</p> <p>11月 【3】①②③11/14（実施時期は連携先と要調整）</p> <p>まとめ</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 11
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト④認知症をめぐる共生社会構築分野
事業概要	<p>高齢化社会を迎え、社会問題化してきている認知症という課題に対して、PF 連携機関・各種団体・地域住民などが協働し、以下の要領で課題解決の道を探る。</p> <p>①プロジェクト科目を開講する。ゲストスピーカーを招くなどして認知症に対する理解を深めるとともに、学生とともに認知症に関わる社会課題の解決に向けた取り組みを行う(昨年までの例:学生が作成した VR などの映像による回想法の実践、バーチャルバスツアーの実施、認知症啓発パンフレットの作成・配布など)。</p> <p>②取り組みは米原市の社会福祉法人「ひだまり」ならびに特定非営利活動法人「びわ」の運営するグループホーム等の協力を得る。</p> <p>③彦根市の協力を得て、プロジェクト科目の受講生を対象に認知症サポーター養成講座を開講する。</p>
事業計画	<p>4 月～10 月 有志による彦根市のグループホームとの連携事業や米原市に本拠を置く社会福祉法人と連携したプロジェクト科目の開講準備。</p> <p>10 月～3 月 米原市および彦根市の社会福祉法人と連携したプロジェクト科目を秋学期に開講。彦根市保健福祉部の認知症サポーター養成講座や、その他認知症に関わるセミナーを地域に公開して開催。</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト⑤びわ湖東北部地域でのホールの子リーチ事業
事業概要	<p>びわ湖東北部地域にある特別支援学校で、プロの音楽家による音楽ワークショップを実施し、質の高い音楽教育を提供する。滋賀県と滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」の連携によって実施する。</p> <p>滋賀県では、2011 年度からホールの子事業を毎年開催している。小学校や特別支援学校の児童・生徒を対象にびわ湖ホールでオーケストラの鑑賞教室を実施し、2022 年度は 10,206 名の子どもたちに舞台芸術に直接触れる機会を提供する予定である。令和 3 年に策定された滋賀県文化振興基本方針（第 3 次）では、「誰もが文化芸術に親しめる場の提供」が重点施策として掲げられているが、障がいや病気などで遠距離の移動が困難等の理由で、ホールの子に参加したくても参加が難しい等の子どもたちにも音楽を届けるために、ホールの子事業のアウトリーチ「ホールの子リーチ」を実施し、事業を享受する子どもたちの拡大を目指すものである。</p> <p>SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」を目的とし、今回は特に特別支援学校（滋賀県立盲学校など）を対象とする。（今回は 1～2 校で 2 回程度で試験的に事業を実施してモデルを形成し、来年度以降は対象校を増やす予定。）ホールの子のプログラムをもとに、県文化芸術振興課と連携、協議しながら、滋賀大学音楽教育支援センターが各学校の子どもたちの実態に合ったアウトリーチを実施する。</p>

事業計画	<p>びわ湖ホールでの県のホールの子事業は、通常、5～6月に行われるので、事業が終わった後、そのプログラムを参考にし、県文化芸術振興課と滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターが連携して、特別支援学校教員の協力も得て、各学校のニーズに合ったプログラムを制作。10～12月頃を目途に、音楽家と滋賀大学音楽教育支援センターのスタッフが学校を訪問し、音楽ワークショップを実施する。今回は試験的に事業を実施してモデルを形成し、次年度以降は、他の特別支援学校や小中学校の特別支援学級などにも事業を広げていく予定である。</p>
------	--

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	B-3-1 災害に強いまちづくりプロジェクト①防災士養成講座&防災カフェ あ・ら・かるて
事業概要	近年、地球温暖化の影響もあり、各地で大規模災害が毎年起こるようになった。一昨年度から開催している(1)「防災士養成講座」を継続するとともに、(2)「防災カフェ あ・ら・かるて」を開催する。
事業計画	(1)防災士養成講座 (通信レポート+2 日間講義+防災士試験) [講師]滋賀大学・滋賀県立大学・立命館大学・京都橘大学・彦根地方気象台・NPO 政策研究所・日本防災士会滋賀県支部の講師 [会場]聖泉大学 (2 日間) [定員]95 名程度 (コロナ対策のため 50%程度で募集予定) [募集]各連携機関に PF 推薦枠を設け募集するとともに一般募集も行う。 (2)防災カフェ あ・ら・かるて (内容見直し中) i) 一般市民 (学生を含む) を対象に滋賀県危機管理防災センターの見学を含む防災研修会を実施する。 ii) 学生防災士すたーとあっぷアクション・・・協議会参加大学において、防災士資格を有するもの、防災活動に関心のあるもののうち、有志を対象にネットワーク「ともにいきる (仮称)」を立ち上げ、すたーとあっぷアクションとしてすごろく (アナログ版・デジタル版) 制作に取り組む。制作したすごろくは城内小学校に頒布し、防災啓発活動につなげていく。 iii) 防災士りかれんとアクション・・・活動未経験の有資格者を対象に、自信をもって活動のスタートに立てるよう、活動仲間をつくり知識とスキルをより確かなものとする二日間 (約 6 時間) の講座、ワークショップを実施。

	<p>[第1日目] 被災者の心理を知る＋防災士間コミュニケーションを深め協働活動を探る。</p> <p>[第2日目] 防災士ができる応急対応の精度を高める＋防災士間コミュニケーションを深め協働活動を探る。</p>
--	--

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	B-3-1 災害に強いまちづくりプロジェクト②地域の保育人材育成「小児救急法」講習
事業概要	<p>びわ湖東北部地域内の保育人材のスキルアップを目的に小児救急法講習を開催する。子どもの命を預かる保育士は、命を守るための安全管理や、傷病に対する対応の義務等を有している。講習会にて知識・技能を修得することで、地域保育の水準と魅力向上に効果が期待できる。</p> <p>講習プログラムに、メディック・ファーストエイド (MFA) による「チャイルドケアプラス」を用いる。対象は、当地域内の保育従事者及び保育士を目指す学生とするが、MFA の規定により、1 名の講師に対して 12 名の受講生という定員が定められていることから、2 日間開催の合計 24 名を定員とする。講師には、滋賀文教短期大学の松本教授及び MFA インストラクター兼トレーナーの林健児郎氏を予定する。尚、本事業による保育人材のスキルアップにより、WG-B の目的である「地域コミュニティの活性化事業」を達成するためには、継続的に事業を実施していくことが重要である。単発の事業ではなく、びわ湖東北部地域で持続可能に小児救急の知識・技能を身につけた保育人材を養成し続けることができるように、当地域の保育士養成機関である滋賀文教短期大学が講習指導者 (トレーナー) の養成と、必要備品を揃えることで、地域の学習拠点となれることも目指す。</p> <p>※令和 4 年 4 月現在において、MFA チャイルドケアプラスの受講先は、滋賀県内に存在しない。</p>

事業計画	<p>MFA 派遣講師による「チャイルドケアプラス」講習会を開催</p> <p>募集要項</p> <p>①応募資格</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長浜・彦根・米原在住の学生で現在保育士養成課程を履修中の者</li> <li>・長浜・彦根・米原で保育に従事する者</li> </ul> <p>②費用 受講生 9,000 円程度（講習費用の差額は協議会が補助する）</p> <p>③選考 定員 24 名で先着順 ただし最終年限の学生を優先する</p> <p>④日程 令和 4 年度 大学の標準的な学年暦及び講師との調整による</p> <p>⑤場所 滋賀文教短期大学</p>
------	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-2 地域課題解決に取り組む学生プロジェクト①SDGs でつながる学生の地域連携活動推進事業
事業概要	<p>「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」として、PF 連携大学(学生・教員)と PF 連携機関・びわこ東北部地域にある各種団体が連携し、地域活性化や地域課題解決に向けた取組を行う事業。連携大学から事業提案を募集し、活動を認められたプロジェクトには、活動費(最大 10 万円)の範囲内で提案に沿った取組を行う。なお、会計については、プロジェクト提案大学で行い、PF 事務局へ請求する。</p> <p>活動の中間報告として「キャンパス SDGs びわ湖大会」を活用する。</p> <p>コロナ対応のため、対面の活動期間が限定されることを想定し、各大学での募集は、8 月末まで実施可能とする(対面の活動以外は制限なし)</p> <p>※1 大学 3 プロジェクトまで。</p> <p>プロジェクト実施学生には、地域への愛着度調査を実施する。</p>
事業計画	<p>各大学のスケジュールに合わせて実施する。</p> <p>&lt;以下は目安&gt;</p> <p>6 月 プロジェクト募集要領、申請書作成、募集開始</p> <p>6 月下旬 第 1 回目 実施プロジェクト決定</p> <p>6 月～8 月 プロジェクトの募集・提案・決定(最大 15 プロジェクト)</p> <p>6 月～2 月 プロジェクトの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学において課外活動が中止されている期間は、対面による活動は不可。</li> </ul> <p>11 月頃 キャンパス SDGs びわ湖大会オンラインパネル展へ出展</p> <p>11 月下旬頃 キャンパス SDGs びわ湖大会(会場・県立大学)で、活動の中間報告実施</p>

	1月 学生アンケートの実施（愛着度調査） 2月下旬 プロジェクト実績報告・会計報告 ※コロナ対応等により、「キャンパス SDGs びわ湖大会」が中止された場合は、 中間報告は中止する。
--	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11 住み続けられるまちづくりを
取組事業 No.	B-3-2 地域課題解決に取り組む学生プロジェクト②「楽しみながら」地域に関わる学生プラットフォーム構築事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北部地域に在住・在学する大学生が、自由な発想と旺盛な行動力により、自らが企画した活動を「楽しみながら」実践することで、当該地域への誇りや愛情を抱き、自ら進んでまちづくりに参加しようとする意識を育むことを目的とした事業。</li> <li>・まちづくりにおいて、人口減少による担い手不足は深刻な課題であり、幅広い世代、特に若者の参加が求められている。</li> <li>・そのため、若者の主体的な参加にとって重要な「楽しい」を起点とした取組みを、地域や大人(住人)を巻き込んで実現することを通して、若者に楽しさや充実感、さらにはまちへの愛着を感じてもらうことがねらい。</li> <li>・長浜市では既に、若者の地域参加のきっかけとなる「高校生 Challenge &amp; Creation プロジェクト」を実施しているが、そこに、経験値・行動力・視野の広さを兼ね備えた東北部地域にある 5 大学の「大学生」を加えることで、取組みの幅や実現性を上げ、より効果的な事業にするとともに、大学生が各地域(長浜・米原・彦根)のまちづくりへ参加するきっかけとしたい。</li> <li>・また、今回の参加者を母体として、東北部地域のまちづくりに関わる学生のプラットフォームを作ることで、当該地域に在住・在学する大学生が継続的にまちづくりに関わる体制を構築していきたい。※まずは長浜市が主導してプラットフォームづくりを行うことを想定。</li> </ul>

事業計画	<p>① 高校生と大学生がチームとなり、身の回りの課題や関心をテーマに自由にアイデアを出し合い「Weプロジェクト」を立ち上げる。 【7月下旬】</p> <p>② 実現に向けた作戦会議を行い、地域の様々な人・団体等の協力を得ながら、プロジェクトを実行する。【8月～11月】</p> <p>③ 実施結果を報告会で発表する。【12月】</p> <p>※ 参加者の募集【6月】（東北部地域の5大学の学生へ周知）</p> <p>※ Weプロジェクト…地域に楽しみながら関わる取組みや活動 (例：仮装×ごみ拾い)</p> <p>※ 今年度の当該事業の取組みフィールドは、長浜市内を基本とし、3プロジェクト程度を想定</p>
------	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3 まちの魅力発信プロジェクト①デジタルコミュニティ通貨を通じた地域づくり実験事業
事業概要	<p>滋賀県が行う「デジタルコミュニティ通貨」実証実験とコラボした、学生協働プログラムとして実践する。</p> <p>持続可能な社会づくりとして地域資本主義の考え方に注目し、いわゆる売上や利益をベースとする経済資本とは別に、人との繋がりやコミュニティをベースとした社会資本、自然や歴史・文化をベースにした環境資本を提唱する「鎌倉資本主義」について学ぶ。</p> <p>その上で、社会資本と環境資本に着目した地域活性化の仕組みとして「デジタルコミュニティ通貨」の考え方を学び、実際に滋賀県で行う実証実験に参画し、コミュニティ通貨を使ったり、通貨のユーザーの獲得や使用できるスポットの開拓などの活動を行うもの。</p> <p>具体的には、学生が大学内や彦根地域を中心に、実際にコミュニティ通貨を使ったり、ユーザー獲得や使用できるスポットの開拓などを行うことを想定している。</p>
事業計画	<p>10 月上旬 鎌倉資本主義（経済資本、社会資本、環境資本）の考え方を学ぶ</p> <p>10 月中旬から下旬 その上で、社会資本と環境資本に着目した地域活性化の仕組み「デジタルコミュニティ通貨」の考え方を学ぶ</p> <p>11 月上旬から 1 月下旬 実際に「デジタルコミュニティ通貨」の実証実験に参画し、通貨を使ってみる、ユーザーの獲得やスポットの開拓をする</p>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3 まちの魅力発信プロジェクト②音楽を通じた多文化共生のまちづくり紹介動画
事業概要	<p>地域における芸術文化の振興を図るとともに、音楽を通じた多文化共生のまちづくりを推進することを目的として、長浜市民国際交流協会、米原市多文化共生協会との連携により国際交流イベントを実施する。そして、これらの活動の様子と、びわ湖東北部地域における様々な国際交流の取組みを紹介するプロモーションビデオを制作する。</p> <p>昨年度は、地域で活躍する音楽家の方々やプラットフォーム参加校の学生、外国人を含む地域住民の方々の協力のもと、多文化共生を目指した地域の様々な取組みを紹介するためのプロモーションビデオを制作した。なお、これらの活動は滋賀県国際課、長浜市市民活躍課、彦根市企画振興部企画課との連携のもとに進めた。昨年度の実績を踏まえ、今年度も自治体との連携を図りながら、地域住民の方々やプラットフォーム参加校の学生と国際音楽交流イベントを行うとともに、これらの様子を収録したプロモーションビデオを制作することで外国人市民と日本人市民の地域コミュニティの活性化を目指す。</p> <p>完成動画は、びわ湖東北部地域連携協議会や各連携団体のホームページ、また広報物等で紹介し、当協議会の取組みと地域の国際交流事業を、地域住民の方々に幅広く周知する。</p>

事業計画	<p>7月 関係者打ち合わせ、出演者調整</p> <p>8月 動画素材の募集 米原市多文化共生協会の国際交流イベント</p> <p>9～11月 動画撮影、動画のBGM「世界が一つになるまで」の合唱収録（演奏者はPF参加校の学生有志と地域の音楽家の皆さんなど）</p> <p>12月～1月 動画編集及び校正</p> <p>1月下旬 動画完成後、YouTubeにアップロード</p> <p>2月～プレスリリース・各広報誌、PF各機関ウェブサイトのSNSで発信する</p>
------	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3 まちの魅力発信プロジェクト③やさしい日本語普及活動
事業概要	<p>現在、びわ湖東北部地域（彦根市、米原市、長浜市）には 6, 800 人以上の外国人住民が生活しており（令和 3 年 1 2 月 3 1 日現在）、外国人住民の定住化が進み、本地域産業の担い手として欠くことのできない存在となっている。外国人にとって分かりやすい「やさしい日本語」を行政機関をはじめ、地域で普及させることにより、外国人住民への支援を総合的に行うと同時に、日本人住民にも多文化の理解を促し、共に活躍する地域社会の構成員として、多文化共生のまちづくりを進める仕組みを構築する。普及活動として、昨年引き続き企業、団体への啓発活動を行い、「やさしい日本語協力店舗・施設」を募集する。また、昨年度、新型コロナウイルスの拡大により開催が中止となった地域の企業、住民対象の「やさしい日本語」講座を大学（学生）と連携し、開催する。昨年度の参加者（学生）や留学生等を講座のアドバイザーとして招き、さらなる「やさしい日本語」の普及に取り組む。</p>
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業、団体への啓発活動（ホームページでの呼びかけ、訪問説明等）</li> <li>2. やさしい日本語講座（行政職員対象）</li> <li>3. やさしい日本語講座（企業、市民対象）</li> </ol>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	(取組 4) ネットワーク推進事業
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4 ①キャンパス SDGs 大会
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会が主催となって、令和 4 年 11 月上旬の 1 週間程度をキャンパス SDGs WEEK として、SDGs シネマ、講演会、ワークショップなどを実施するとともに、大学や地域の団体の交流発表会を実施する。</li> <li>・SDGs の達成に向けて持続可能な社会をどう実現していくのか、気候変動対応やCO2削減など社会的な課題に対応する講演会やワークショップでびわ湖東北部地域連携協議会の学生が中心となる展開を実施する。</li> <li>・SDGs に興味ある多様な人々の参加を促すため、コロナ禍の状況を見極めつつ、イベントを約 1 週間にわたり開催することで地域の人々、小中高校生やびわ湖東北部地域連携協議会の学生が対面で交流できるキャンパス SDGs WEEK とする。なお、協議会参加大学(任意)のキャンパスを会場として、SDGs をテーマにした映画を視聴し、映画をきっかけに SDGs について考える講座を実施する。(実施日は別途相談)</li> </ul>
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施機関(予定): 令和 4 年 11 月 7 日(月) から 11 月 12 日(金)</li> <li>2. 内容: SDGs シネマ上映、講演会、ワークショップ、事例発表交流会</li> <li>3. 実施スケジュール <ul style="list-style-type: none"> <li>5 月 概要検討</li> <li>8 月 実施内容、スケジュール決定</li> <li>10 月 イベント広報、開催準備</li> <li>11 月 キャンパス SDGs WEEK 開催</li> </ul> </li> </ol>

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。</li> <li>・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	(取組 4) ネットワーク推進事業
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4 ②市民活動団体交流プロジェクト
事業概要	<p><b>【背景】</b> 地域課題の解決には、住民と行政等の協働が必要。幅広い分野の中でどういった地域の課題、市民の活動がされているか、大学・自治体・産業界・市民が相互に認識し、接点を見出す必要がある。</p> <p><b>【目的】</b> 「①市民活動団体と市民活動団体のつながり、行政等と市民活動団体のつながり、地域住民と市民活動団体のつながり」、「②新たな市民活動のきっかけづくり」を目的に、地域課題に取り組んでいる活動内容の展示会「つくる未来展」を開催し、交流する。</p> <p><b>【備考】</b> 令和 3 年度に米原市で実験的に展示会を開催した。(米原市予算) 本来、地域課題や市民活動は市域にとられるものではないが、市予算で事業を行う以上、他市内の課題や成果につながるように見えるものは執行しにくい。そのため、びわ湖東北部地域連携協議会の場を活用し広域的な範囲で取組みたい。</p>

<p>事業計画</p>	<p><b>【スケジュール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月、6月 展示事業の募集（第1回〆切）</li> <li>・ 6月 応募いただいた事業を見やすく整理、調整</li> <li>・ 7月 事業をオンライン上で公開</li> <li>・ 8月中旬 米原市役所で展示</li> <li>・ 8月以降（随時） 応募者同士での交流</li> <li>・ 8月以降 事業数に応じて、展示事業の追加募集（第2回〆切）</li> <li>・ 秋頃 長浜市内展示（民間施設またはながはま文化福祉プラザ等）</li> <li>・ 冬頃 彦根市内展示（民間施設または彦根市スポーツ・文化交流センター等）</li> </ul> <p><b>【展示について】</b></p> <p>展示者：市民活動団体として既に活動している人、これから活動してみようと考えている人。また、行政等の公的な事業者。</p> <p>展示期間：平日および休日。（米原市役所は8月11日（木）～8月13日（土）の三日間を予定。）</p> <p>展示内容：現在の活動内容や今後の予定、課題など。（ただし、展示会の実物は目に留まりやすくすることを目的に、ビジュアル中心で文字データが少ない展示物とする。）</p> <p>オンライン展示：各事業の詳細を伝える場合はウェブサイトやnoteなどオンライン上の場とする。</p> <p><b>【交流について】</b></p> <p>展示経由：実物の展示物やオンライン上の展示物を使って、お互いの事業について意見やアドバイス、事業連携のオファーができるようにする。</p> <p>実物→付箋等でコメントできる環境。</p> <p>オンライン上→noteなどコメントできる環境。</p> <p>交流会：プッシュ型で交流の場をセッティングしないと、交流がスタートしないケースもあるため、展示者の複数名で座談会を行う。</p> <p><b>【アーカイブについて】</b></p> <p>新たな活動に取り組む場合、過去の市民活動の状況を参考にしたり、既存の団体に連絡することがある。継続してつくる未来展を続ける予定だが、単発的なイベント、一時的な盛り上がりで終わらないように、しっかりと記録、公開をする。（ウェブサイト、note、YouTube等。）</p>
-------------	---

③ 2022 度 WG-C 地域を担う次世代人材の育成

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGsをテーマにした共通科目を1科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	全
取組事業 No.	【C-1-1】近江での SDGs の実践
事業概要	<p>SDGs や地域課題をテーマとし、協議会加盟大学から講師を派遣し滋賀県内の大学生の教育環境の充実を図るための共同科目を開講する。</p> <p>科目概要は次のとおり。(シラバスより)</p> <p>持続可能な開発目標である SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015 年 9 月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた 17 の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画である。滋賀県は全国に先駆けて、2017 年 1 月に SDGs を県政に取り込むことを宣言した。本科目ではまず、SDGs とは何か学び、SDGs で掲げる 17 個の目標とその目標達成への実践例なども学ぶことで SDGs への理解を深める。また、SDGs での目標を近江の地で実践していくためにはどのような行動計画を立ててどのように実践していけば良いのかを、グループワークを通してそれぞれが考え、それを皆で共有することで、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。</p>
事業計画	<p>開講…後期(秋学期)集中(10月～12月)</p> <p>単位数…2単位</p> <p>受講対象…環びわ湖コンソ単位互換科目として滋賀県内の大学生が受講可能。</p> <p>授業計画(シラバス抜粋)…</p> <p>第1回 SDGs とは何か(担当:長浜バイオ大)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs とは何か・滋賀県におけるSDGs への取り組み</li> <li>・竹生島の現状視察とSDGs の実践（フィールドワーク）</li> </ul> <p>第2回 SDGs とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs の5つのP（People：人間）（担当：滋賀文教短期大）</li> <li>・SDGs の5つのP（Prosperity：豊かさ）（担当：滋賀大）</li> </ul> <p>第3回 SDGs とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs の5つのP（Planet：地球）（担当：滋賀県立大）</li> <li>・SDGs の5つのP（Peace：平和）（Partnership）（担当：聖泉大）</li> </ul> <p>第4回 SDGs の概念を体験する（担当：長浜バイオ大）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> </ul>
--	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 1 SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	4、11
取組事業 No.	【C-1-2】SDGs 単位互換科目「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江の暮らしとなりわいー」
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs に係る県内大学生の理解を深め、行動を促進するため、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換科目として「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江の暮らしとなりわいー」を実施する。</li> <li>・近江の暮らしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すとともに、ローカルな現場およびグローバルな現場の実践・課題が互いにどのようにかかわっているのか、また、その関わりによって、どんな未来が実現できるかについて、外部講師と共に議論する。</li> <li>・SDGs 達成に取り組む県内企業や、SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、彦根、米原、長浜地域を中心とする学生が参加できるように周知する。</li> <li>・令和 3 年度は、コロナ禍であったが県大：44 名、滋賀大：2 名、立命館大：5 名の履修があった。</li> </ul>
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施期間(予定)：令和 4 年 8 月 24 日(水)～26 日(金)(夏期集中講義)</li> <li>2. 定員：100 名</li> <li>3. 担当教員：上田洋平(滋賀県立大学講師)</li> <li>4. 実施スケジュール(予定) <ul style="list-style-type: none"> <li>6 月 環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける単位互換科目募集開始</li> <li>6 月中旬 単位互換事業科目履修登録締切</li> <li>8 月 24 日～26 日 授業実施</li> </ul> </li> </ol>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 2 (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実に図る。
活動指標	単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	4、11
取組事業 No.	【C-2-1】単位互換提供科目「滋賀論」の開講
事業概要	<p>環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用し、下記のとおり単位互換提供科目を開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業科目名：「滋賀論」 単位数：2 単位</li> <li>・授業概要：滋賀県が持つ独自の風土や歴史文化および地域の個性を生かした地域づくりに関する取組みや実践について解説する。授業形態は、講義とディスカッション (10 回分)、現場を巡るフィールドワーク (5 回分) とする。フィールドワークは、1 日かけて琵琶湖周遊船で各地を巡る予定。</li> </ul>
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：6 月 11 日 (土)、6 月 18 日 (土)、6 月 25 日 (土)</li> <li>・場所：聖泉大学</li> <li>・担当教員：森雄二郎 (聖泉大学人間学部)</li> <li>・対象者：聖泉大学および環びわ互換科目の履修学生</li> <li>・内容：※以下、シラバス抜粋</li> </ul> <p>6/11①オリエンテーション、②滋賀県の概要、③④⑤滋賀県の歴史と文化  6/18①②③④⑤フィールドワーク (琵琶湖周遊)  6/25①②琵琶湖の環境と湖国文化、③④滋賀県の政策課題と取り組み、  ⑤まとめ</p>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。</li> </ul>
対応 SDGs 番号	4、11
取組事業 No.	<p>【C-3-1】びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本を紹介してみませんか 2022 ～POP・本の帯コンクール～</li> <li>②図書館を活用した若者世代の読書推進事業</li> </ul>
事業概要	<p>【C-3-1-①】</p> <p>大学・専門学生、中学・高校生を中心とする若者世代の読書量は、減少傾向にあり、その読書活動を推進していくことが全国的にも課題とされています。若者の読書活動推進は地域の人材育成に大きく関わる課題であると考えられます。その課題をびわ湖東北部地域で共有し、解決への方策の一つとして、自分が読んで面白いと思った本を紹介するPOPまたは本の帯を夏休み期間を中心に募集してコンクール実施します。コンクールに応募することで読書へのきっかけをつくり、さらに、コンクールに応募された作品を広く展示・周知することで、広く若者世代の読書への関心呼び起こすことを目的としています。また、受賞作品を配したポスターカレンダーを作成して県内図書館に配布することでさらに広い範囲の地域での読書活動推進も目指す予定である。</p> <p>【C-3-1-②】</p> <p>中学・高校生、大学生などを中心とする若者世代の読書量は、年々減少傾向にある。成人年齢の引き下げに対応するためにも、自ら考える力を培うことができる読書活動の推進は、全国的に課題とされている。また本市においても、中・高・大と年齢が上がるにつれ図書館の利用は減少しており、若者の読書活動推進は地域の人材育成に大きく関わる課題でもあると考えられる。</p>



WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加（2023 年度評価）</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。（2023 年度評価）</li> </ul>
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	<b>【C-3-2】</b> びわ湖東北部地域 児童・生徒応援プロジェクト ①不登校児童・生徒プロジェクト ②中学校部活動支援人材育成講座（基礎編）
事業概要	<b>【C-3-2-①】</b> びわ湖東北部地域の多様な価値観を理解した学生のサポート人材を育成しつつ、教育委員会とも連携して大学内での居場所（学習支援）の周知と不登校生徒の受け入れ要請に応える体制を整える。さらに今年度は不登校児童・生徒を直接的に支援する団体とのネットワークを構築し、大学が「多様な教育を考え、実践する」ための行政や支援団体とのハブ的な役割を持つことを目指す。 具体的には、人材育成として滋賀県及び近隣県でのフリースクール・デモクラティックスクール実践者を迎え、不登校の実情や生徒の様子、関わり方などを学んだり、学生同士で小中高の経験を通じたディスカッションを行う。ハブ的役割としては、居場所情報サイト「ひこねの居場所」を更新・充実、多様な教育を考えるフォーラムの開催、滋賀県内のフリースクール等とのネットワークや彦根市での不登校児童生徒支援連絡協議会に参画し、地域における不登校や教育の多様性への理解を深めたい。 <b>【C-3-2-②】</b> 現在、文部科学省で検討されている学校における働き改革の一方策として、「部活動の地域移行」が挙げられており、移行を担う地域人材の確保が制度の成否を決定することが想定される。

	<p>本講座では、びわ湖東北部地域住民を対象として「部活動の地域移行」を担う人材養成講座（基礎編）として開設、学校教育、子どもの成長、子どもの心理、ケガ防止・対応についての学習機会を提供する。次年度もセカンドステップとして継続開講することを予定している。</p>
事業計画	<p><b>【C-3-2-①】</b>  4月～  「ひこねの居場所」ウェブサイト掲載情報の更新。滋賀フリースクール等連絡協議会及び彦根市社会福祉課不登校児童生徒支援連絡協議会に参画。</p> <p>10月～  プロジェクト科目として「不登校プロジェクト」を開講し、サポート人材を育成。</p> <p>11月～  フリースクールネットワークや協議会とも連携し、「多様な教育を考えるフォーラム」（仮）を開催。大学だけでなく、地域にも広く呼びかけ、湖東・湖北地域での機運の醸成を図る。</p> <p><b>【C-3-2-②】</b>  [講座] 9月から12月の間  質疑対応を含め90分程度 × 4～5講座  [講師] 聖泉大学スポーツ・身体運動支援センター教員ほか  [会場] 聖泉大学 一部ZOOMによる遠隔  [予約] 定員30名程度（事前申込制）  [その他] 対面式を原則とし感染症拡大状況によりZOOM対応とする。講座は同時収録を行い、オンデマンド視聴への対応をはかる。</p>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加（2023 年度評価）</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。（2023 年度評価）</li> </ul>
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	<b>【C-3-3】 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト</b> ①ICT 教育推進教員養成事業 ②子ども統計プログラミング教室
事業概要	<b>【C-3-3-①】</b> 昨年度にびわ湖東北部地域の教育委員会である長浜市（長浜市教育委員会長浜市教育センター、教育改革推進室）、米原市（米原市教育委員会米原市教育センター）、彦根市（彦根市教委委員会 ICT 教育推進課）、アドバイザー（株式会社わけわけ代表取締役）でより協議し、作成した実施要項および今年度のびかりキュラム（年 6 回開催）に基づき、長浜市、米原市、彦根市が任命した各市 10 名程度の教員が本講座を受講する。 GIGA スクール構想のねらいや ICT を活用した先進地の授業例や ICT の効果的な活用、オンライン授業について学ぶ。さらに、研修講師としての力量も身につける。 <b>【C-3-3-②】</b> 令和 4 年 11 月を目途に、県内の小学 5～6 年生とその保護者 10 組程度を対象に小学校の統計学習に役立つデータ検索をテーマに、データを分析するためのプログラミング学習を中心としたワークショップを行う。 講師は、総務省主催の子ども統計プログラミング教室の講師を務めた実績を持つ事業者に依頼することで、講義内容の担保を図る。 また、長浜市と共催し、さざなみタウン長浜文化福祉プラザで開催する。

事業計画	<p>【C-3-3-①】</p> <p>5月 各市担当者打合せ</p> <p>7/26 第1回講座</p> <p>8/8 第2回講座 ※第1、2回は、滋賀文教短期大学で開催予定</p> <p>9/29 第3回講座</p> <p>10/28 第4回講座</p> <p>1/26 第5回講座 ※第3～5回は、オンライン開催</p> <p>2/16 第6回講座 ※最後は、集合研修とし、会場は未定</p> <p>【C-3-3-②】</p> <p>9月下旬 HPへの記事掲載やチラシ配布等による広報及び受講者募集</p> <p>10月中旬 受講者募集締切</p> <p>11月初旬 子ども統計プログラミング教室開講</p>
------	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 4 (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	8、11
取組事業 No.	【C-4】びわ湖東北部地域 動画で推進地域内進学 学生インタビュー動画制作
事業概要	<p>コロナ禍で、効果的に地域住民へ大学での学びを伝えるため、学生のインタビュー動画 (学問分野の選択理由等) を制作し、今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保・育成を目指すことを目的に 2021 年度事業として実施した。コロナ禍の影響もあり聖泉大学、滋賀県立大学において撮影ができず、その他の大学においても複数名の学生撮影ができなかったことから、2022 年度も継続して撮影を行う。</p> <p>撮影が完了した動画は随時各大学の HP 等にて広報素材として活用し、合同の大学説明会が実施される際には説明資料の一つとして活用する。また、更にびわ湖東北部地域のへの進学を全国的に増やせるよう、効果的な取組を本事業内にて同時に検討していく。</p>
事業計画	<p>事業決定後、5 大学等へ撮影協力の依頼</p> <p>6 月～ 随時各大学で撮影</p> <p>9 月～ 動画校正 完成次第 学びのポータルサイト等への公開</p>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-5-1】 SDGs 地域人材養成事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会参加校の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者、社会人等を対象にSDGs の普及や実践促進に係る以下の人材養成事業を実施する。協議会参加機関のHPやSNSで広く参加者を募り、SDGs の視点を持ち身近な地域で活躍できる人材を養成する。</li> <li>(1) SDGs 連続講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>①SDGs シネマ講座 オンライン等を活用しSDGs をテーマにした映画を題材に講座 (4回) を開催し、意見を共有することでSDGs を自分ごと化して身近な行動を考えるきっかけを提供する。</li> <li>②SDGs ワークショップ SDGs 公認ファシリテーター風かおる氏による「(仮)SDGs とわたしを考えるワークショップ」を3回開催し、2030年に向けてSDGs を学びなおすワークショップを実施する。</li> </ul> </li> <li>(2) SDGs 出前講座 県内外の行政機関、教育機関、企業等から依頼を受けて、びわ湖東北部地域連携協議会参加機関からSDGs に係る講師を派遣し講演やワークショップを実施する。</li> </ul>

事業計画	<p>○実施スケジュール</p> <p>6月頃 SDGs シネマおよび風かおる氏と契約</p> <p>8月頃 SDGs 連続講座の申し込み受付開始 (SDGs シネマ講座およびSDGs ワークショップ)</p> <p>9月～12月頃 SDGs 連続講座開催 (シネマおよびワークショップ)</p> <p>・SDGs 出前講座は、地域や企業等の依頼に応じて随時講師を派遣</p>
------	--

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-5-2】 次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト
事業概要	<p>社会人を対象とし、大学等の高等教育機関や市町の社会教育団体等における専門的な学習機会の提供により、学んだ知識を次世代を担う地域人材へ伝えられる人材育成を目的とした事業。</p> <p>このプロジェクト目標は、大学等の高度な知識をはじめ、地域資源、地域課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、地域交流活動などを通じて、積極的に次世代へ学んだ知識を伝える事で、地域のつながりを強め、総合的な地域人材の育成を図る。</p> <p>どの地域からでも参加が可能で、主に長浜市・米原市・彦根市にて周知を行う。</p>
事業計画	<p>地元先生育成プロジェクト実行委員会を開催 プロジェクト実施に向けた企画・運営を行う。</p> <p>講座期間・内容 (予定)</p> <p>2022 年 7 月～2022 年 12 月 12 講座 (3 講座×4 コース) を予定 高等教育機関や市内高等学校、地域で活躍する社会教育団体等と連携し、特色ある学びの提供と、学びを活かした活躍の場を広げられる講座を</p>

	<p>行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・身近にある文化芸術や地域資源、SDG s 等の学び</li><li>・地域の自然や歴史文化、学校や団体の特色を生かした学び</li><li>・学びを通して知識を広げ、活躍できる場の提供を行う。</li></ul>
--	--

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5
取組事業 No.	<p>【C-5-3】 保健医療福祉分野の人材育成プログラム</p> <p>① ナイチンゲール看護研究会・滋賀</p> <p>② 看護師のためのがん看護の向上とストレスマネジメントにかかる研修</p>
事業概要	<p>【C-5-3-①】 ナイチンゲール看護研究会・滋賀</p> <p>フローレンス・ナイチンゲールが後世に残した偉業は、看護の原点として、看護職者に受け継がれ続けている。そして、看護の質の向上を図るためにも、ナイチンゲール看護思想を看護職や看護教育者が学び考え続けることが必要である。そこで、地域のさまざまな立場の看護職や看護教育に携わるものたちが集い、ナイチンゲール看護思想を学び議論する研究会を開催する。これにより、看護職者が看護や教育の現状を見直すことができ、質の高い看護実践ができる人材の育成を目指す。</p> <p>① びわ湖東北部地域を中心に、ナイチンゲール看護思想と現代の看護における臨床や看護教育を対比させながら、看護の本質を探求することを目的に月に一度例会を開催する。</p> <p>② びわ湖東北部地域を中心に、病院や施設に従事する看護職と、専門学校や大学に勤務する看護教員、および大学院や看護学部の学生、高校生が参加し、ナイチンゲールの看護思想を伝える講演会を開催する。</p> <p>③ 例会や講演会での活動と参加者の学びを書籍としてまとめ、地域の病院や施設へ配布する。</p>

	<p>タイトル「ナイチンゲール看護・滋賀の歩み(仮)」</p> <p>【C-5-3-②】</p> <p>看護師のためのがん看護の向上とストレスマネジメントにかかる研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・びわ湖東北部地域においては、病院・訪問看護施設を超えた看護師の相談・協力体制が整っていないことから、看護師のがん看護スキルの向上と看護師同士のネットワーク構築によるストレスマネジメントにより、看護師がやりがいや自信を持ちながら看護を行える体制整備が喫緊の課題である。</li> <li>・このため、がん患者の看護に従事する看護師を対象に、交流を目的とした定例の研修会を昨年に引き続き開催し、看護師同士の語りの場を設けることでの情報共有・ピアカウンセリング効果によるストレスマネジメントとやりがいの再確認。さらに看護師のがん看護のスキルの向上を図る。</li> </ul>
事業計画	<p>【C-5-3-①】 ナイチンゲール看護研究会・滋賀</p> <p>① 例会の開催 (フローレンス・ナイチンゲール著作刊行物などよりテーマ決定) 5・7・9・10・11・3月 月1回 1.5時間程度</p> <p>② 講演会の開催 「(仮)看護実践に生きているナイチンゲールの看護思想～私たちの時代：医療現場から数珠つなぎ」6月4日(土) 13:30～15:30 講演会・例会の開催場所：対面(本館会議室)／オンライン(zoom)新型コロナウイルス感染状況により開催方法を決定する。参加者10～30名程度。</p> <p>③ 5月～3月 書籍の執筆・校正・編集 2023年3月発行予定</p> <p>【C-5-3-②】</p> <p>看護師のためのがん看護の向上とストレスマネジメントにかかる研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者募集……令和4年6月～</li> <li>・研修会開催……令和4年8月～(3回程度開催予定)</li> </ul> <p>※ビデオ会議等での参加も可</p> <p>※昨年度の参加者の反応に応じて研修会内容を検討・実施し、その後は参加者からの困難事例や死亡患者の情報を基に、問題の明確化と解決に向けディスカッションを行う。</p> <p>※原則として、専門看護師(CNS)を外部講師として招聘</p> <p>※主催者はファシリテーターとして問題解決を図れるよう支援</p> <p>※研修終了後、参加者はリフレクションを記入し次回以降に活用</p> <p>※研修会への参加が、看護実践にどのように役立ったかを調査</p> <p>※調査結果を分析し、成果としてまとめ公表</p> <p>※その後全体総括を行い、次年度のプログラムに反映</p>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5
取組事業 No.	【C-5-4】 ジェンダー平等ユースリーダー育成プロジェクト
事業概要	<p>びわ湖東北部地域を中心とした県内の大学生、高校生、卒業生、若手社会人等の若者を対象に、ジェンダー平等を推進するユースリーダーの育成事業を実施する。地域に根差した産官学（聖泉大学、滋賀県立男女共同参画センターG-NET しが、株式会社ポーラ）の連携、共創により事業を展開する。</p> <p>本事業では、下記の活動を実施する。</p> <p>① ジェンダー平等ミーティングへの参画</p> <p>G-NET しが主催のジェンダー平等に係る課題をテーマとした意見交換会に参画し、参加者のジェンダー平等に対する理解を深め、当事者意識を持って身近な地域の課題について考える機会を提供する。</p> <p>② ジェンダー平等に関する情報発信、ワークショップ・講演会等の開催</p> <p>ジェンダー平等ミーティングの参加者の中から有志を募り、ジェンダー平等に関する情報発信や、ワークショップ・講演会等を協働で企画運営することを通して、ユースリーダーを育成する。</p> <p>③ ジェンダー平等に関する若者の活動支援</p> <p>上述の活動に参加した若者が継続的に活動を行えるよう、若者団体の設立支援等を行う。</p>

事業計画	2022年5月 打ち合わせ。以降、適宜実施 2022年6月 ジェンダー平等ミーティングへの参画。以降、月一回程度。 2022年10月～2023年3月 ジェンダー平等に関する情報発信、ワークショップ・講演会等の開催、その他、若者の活動支援を行う。
------	--

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD・SD) を設ける。
活動指標	共同FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4、11
取組事業 No.	【C-6-1】地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発
事業概要	<p>びわ湖東北部地域を中心とする地域性を加味した人材育成における、教育機能と就業との関連性の調査・分析を目的とする共同 IR 事業を行う。今年度は、共同 IR の萌芽から発展への移行期と位置付け、昨年度の成果を加味した上で、規模を拡大した調査を企画・実施し、大学教育と人材育成・就業の関係をより深く探索することに繋げる。また、本事業の成果を可視化するための BI ツールを用いた共通システムの試作を行い、本事業のゴールである若者の地域定着に必要なことやベンチマークとなる要素の探索を深めていくことに繋げる。この探索プロセスと同時に、本事業に関わるメンバーが大学 IR に関する専門性を高め、教育改善・研究活動等を促進し、次世代を担う人材育成により大きく寄与することも目指していく。</p> <p>①共同 IR 運営会議： 心理・教育・IR 等に関わるメンバーを中心に、調査の方向性や企画内容を決定し、分析項目や調査方法などの計画やデザイン、ならびに共同体制におけるデータ管理方法・規定などを決定する。</p> <p>②情報収集および調査： これまでの結果を踏まえ、今年度も継続的に調査を進める。教育と地域の接続に関わり、かつ FD/SD の取り組みに還元できる指標を探索する。時期は 6 月上旬から開始し、参加校による共通項目の整理・データ収集、web アンケートやインタビューなどの量的・質的データの収集を目指す。</p> <p>③人材の高度化： 本事業の発展を推し進めるため、事業に関係するメンバ</p>

	<p>一がより適切な調査企画・デザイン・解析スキルを持つよう，IRに資する技能開発や研修等に適宜参加し，人材の高度化を図っていく。</p> <p>④分析結果の共有と事業成果の公表： 調査結果をまとめ，共同IR事業の意義や，今後の改善に向けた情報共有の場（発表会）を設定する。また，BIツールを活用した共通システム運用の実現可能性を踏まえ，分析結果の共有方法についてパイロット試験を行う。</p>
事業計画	<p>① 共同IR運営会議の開催 共同IRの実施に向けた企画・運営を行う（2022年6月上旬～2023年3月中旬にかけて約3回程度実施）。</p> <p>② 情報収集と整理・解析 運営会議で決定した調査企画に基づく情報収集とデータ整理を行い，本事業のコンセプトに資する解析を行う（年間を通して随時実施）。なお，データ整理に関しては，BIツールの利用可能性を視野に入れながら進めていく。</p> <p>③ 共同IRによる成果報告 共同IR事業の開発を目指し，その成果をまとめ発表・公表を行う（年2回程度）</p>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD・SD) を設ける。
活動指標	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4、9
取組事業 No.	【C-6-2】 初等・中等教育懇話会
事業概要	<p>びわ湖東北部地域の初等中等教育のあり方等に、プラットフォームがどのような関わり方が出来るかを協議することを目的とする。</p> <p>演 題：「調整中」</p> <p>講 師：初等・中等教育関係者 想定</p> <p>コーディネーター：滋賀文教短期大学</p> <p>日 時：未定 (夏季協議会に合わせ実施予定)</p> <p>方 法：対面での実施 (状況に応じハイブリット形式もしくはビデオ会議形式も想定)</p> <p>場 所：滋賀文教短期大学 あすなろホール</p>

事業計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・講師との事前打合せ (6月中旬～下旬 予定)</li><li>・講師との事前リハーサル (7月中旬 予定)</li><li>・初等中等教育懇話会当日 (8月下旬までに実施 予定)</li></ul> <p>→ハイブリット形式の場合 Zoomビデオ会議システムを利用し、 滋賀文教短期大学内でご対応いただく</p> <p>→質疑応答を含め 40 分程度を予定</p>
------	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価)</li> <li>・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)</li> </ul>
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD・SD) を設ける。
活動指標	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4、8
取組事業 No.	<p>【C-6-3】びわ湖東北部地域 共同 FD・SD 研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 長浜バイオ大学FD</li> <li>② 共同 FD 研修会「実践！ティーチングポートフォリオ作成」</li> <li>③ 共同 SD 研修会『魅力ある大学をつくる - おじさん世代との協働 - 』</li> <li>④ 「ゲートキーパー養成研修 (仮)」</li> <li>⑤ FD・SD「諸外国の SDFD」</li> </ul>
事業概要	<p>【C-6-3-①】長浜バイオ大学FD 教育の質向上を図るため、プラットフォーム参加校の教職員を対象とした研修会を実施する。</p> <p>【C-6-3-②】共同 FD 研修会「実践！ティーチングポートフォリオ作成」 ティーチングポートフォリオ (TP) をテーマとした FD 研修会を開催し、TP を通して大学・教員の教育業績の多角的評価を進め、教育研究の質の改善をはかる。 今年度本学で予定している下記のFD研修会について、プラットフォームに公開し、同事業として実施する。</p> <p>【C-6-3-③】 共同 SD 研修会『魅力ある大学をつくる - おじさん世代との協働 - 』 (案)「18 歳人口の減少」問題に直面する大学、『魅力ある大学をつくる - おじさん世代との協働 - 』をテーマ (状況により変更の可能性あり) に、若者</p>

や女性が活躍できる職場づくりを目指してSD研修会を開催する。

(第一部) おじさん世代との協働を考えるパネルディスカッション等

(第二部) 交流会

- 大学の垣根を超えた相互支援のためのネットワークづくり -

#### 【C-6-3-④】「ゲートキーパー養成研修(仮)」

びわ湖東北部地域連携協議会構成団体の教員及び職員や、協議会外の他大学等も含めて広く展開するFD(大学等及び大学院の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究)、SD(大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修)を各大学のノウハウを生かし実施する。今回計画する研修概要は以下の通り。

(※今後他のSD・FD研修の事業概要と合算予定)

自殺の背景には様々な要因が複雑に関係していると言われていたが、自殺のサインに気づき、支援につなぐことができる人材を増やすことが重要である。令和元年度末より新型コロナウイルス感染症が拡大した影響を受け、令和2年の全国の自殺者数は11年ぶりに増加傾向に転じました。特に、20歳代、10歳代の自殺死亡率の上昇が大きくなっている。びわ湖東北部地域連携協議会としても、特に教育機関においては概ね10歳代後半から20歳代の学生を多く抱え、行政においても自殺防止は喫緊の課題であることと推察されることからゲートキーパー養成の研修を計画することとする。

#### 【C-6-3-⑤】

びわ湖東北部地域連携協議会構成団体の教員及び職員や、協議会外の他大学等も含めて広く展開するFD(大学等及び大学院の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究)、SD(大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修)を各大学のノウハウを生かし実施する。今回計画する研修概要は以下の通り。

(※今後他のSD・FD研修の事業概要と合算予定)

2016年の大学設置基準等の改正に伴い、2017年4月からSD研修会が義務化され、今回の改正で対象としている「職員」は、学校事務職員のみならず、教員や、学長などを含む大学執行部技術職員までと、範囲が広げられ教員と事務職員の協働・連携の強化が求められてきた。今般のこれらの取組に対し諸外国ではどのような形で同様の取組を行い、教職員の資質向上に努めているのか、いわゆる「SD/FD」の在り方自体に目を向け今後の各研修等の参考とする。

事業計画	<p>【C-6-3-①】長浜バイオ大学FD  演 題：未定  講 師：未定  日 時：2022年9月（予定）  方 法：未定  ※長浜バイオ大学FD委員会において、事業計画（講師、日程等）を決定する。</p> <p>【C-6-3-②】共同FD研修会「実践！ティーチングポートフォリオ作成」  演 題：「実践！ティーチングポートフォリオ作成」  講 師：佐賀大学教育研究院自然科学域理工学系  教授 皆本晃弥 氏  日 時：2022年8月9日（火）13：00～16：00  場 所：聖泉大学455教室 または 遠隔（ZOOM）開催  その他：当日不参加者への対応として、収録したものを関係者に限定して視聴できるよう配信する。</p> <p>【C-6-3-③】  共同SD研修会『魅力ある大学をつくる - おじさん世代との協働 - 』  演 題：未定  講 師：未定  日 時：2022年8月 日（ ）13：00～16：00  場 所：未定  その他：当日不参加者への対応として、収録したものを関係者に限定して視聴できるよう配信する。</p> <p>【C-6-3-④】「ゲートキーパー養成研修（仮）」  目 的：各支援機関や窓口のみならず地域、学校、友人同士で「気づき・傾聴・つなぎ・見守り」が行える人（ゲートキーパー）を増やすことを目的とする。  演 題：「調整中」  日 時：2022年8月中旬～9月上旬の間（予定）  方 法：ビデオ会議システムを活用（ZOOMを予定）  ※主催をびわ湖東北部地域連携協議会とし、主幹大学を滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学、聖泉大学として実施。  規 模：事前申込制 上限100名  参加対象：参加対象①：PF参画 大学・短期大学、滋賀県内高等学校、事業</p>
------	--

	<p>主幹校の法人内高校</p> <p>参加対象②：PF 参画外の滋賀県内大学・短期大学、京都府・福井県・岐阜県の短期大学、事業主幹校への過去5年間の志願者出身高校</p> <p>・司会進行、ビデオ会議の運営は滋賀文教短期大学が行う。</p> <p>その他：広報紙 制作・配布、聴講者受付</p> <p>(1)広報紙 印刷：2022年6月下旬／広報紙 配布：2022年7月以降</p> <p>(2)聴講受付期日：開催の1週間前（参加対象①のみを受け付ける期間を設けた後に、参加対象①②両方を受け付ける期間を設ける。）</p> <p>(3)司会進行、ビデオ会議の運営は滋賀文教短期大学が行う。</p> <p><b>【C-6-3-⑤】FD・SD「諸外国のSDFD」</b></p> <p>目的：諸外国のSDFDの在り方を知る目的とする。</p> <p>演題：「調整中」</p> <p>日時：2022年9月中旬～10月上旬の間（予定）</p> <p>方法：ビデオ会議システムを活用（ZOOMを予定）</p> <p>※主催をびわ湖東北部地域連携協議会とし、主幹大学を滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学、聖泉大学として実施。</p> <p>規模：事前申込制 上限100名</p> <p>参加対象：参加対象①：PF 参画 大学・短期大学、滋賀県内高等学校、事業主幹校の法人内高校</p> <p>参加対象②：PF 参画外の滋賀県内大学・短期大学、京都府・福井県・岐阜県の短期大学、事業主幹校への過去5年間の志願者出身高校</p> <p>・司会進行、ビデオ会議の運営は滋賀文教短期大学が行う。</p> <p>その他：広報紙 制作・配布、聴講者受付</p> <p>(1)広報紙 印刷：2022年7月下旬／広報紙 配布：2022年8月以降</p> <p>(2)聴講受付期日：開催の1週間前（参加対象①のみを受け付ける期間を設けた後に、参加対象①②両方を受け付ける期間を設ける。）</p> <p>(3)司会進行、ビデオ会議の運営は滋賀文教短期大学が行う。</p>
--	---

④2022 年度 びわ湖東北部地域連携協議会 WG-D 事業計画

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1 (広報活動)
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-1 広報活動
事業概要	<p>びわ湖東北部地域連携プラットフォーム (PF) 事業が開始して 4 年目となり、本 PF の周知拡大のために計画的・戦略的なメディアへの情報発信が必要である。</p> <p>①本 PF 事業紹介リーフレット&amp;ポスターの作成と配布・掲示 (各 5,000 部) リーフレットとポスターを作成し、市役所・教育機関 (小・中・高を含む)・商業施設・公民館へ掲示依頼する。 ※ 以下、リーフレットとポスターの完成に合わせて実施する。</p> <p>②HP を利用した情報発信 HP のトップページを改修し、より活動実績、トピックが伝わりやすくなるようにする。</p> <p>③その他の情報発信 商業施設や公民館など、スポットで効果のでる場所での広報依頼をかける。</p>
事業計画	6 月末より、①~③の事業について、詳細な検討に入る。

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1 (広報活動)
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-2 2020 年度成果発表会
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果を広く知ってもらい、さらに地域の活性化を促すために、地域一般住民に向けた成果発表会を開催する。
事業計画	2021 年度成果発表会 (一般向け) を下記日程で開催する。 日程 : 2022 年 8 月下旬 内容 : 2021 年度取組事業の成果発表を中心に対面形式で実施する。  ゲストスピーカー等は今後検討していく。

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 2 (協議会ホームページ管理)
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-2-1 協議会ホームページ管理
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業の進捗及びその成果、地域に向けたイベント情報を広く発信するために、ホームページの管理・運営を行う。
事業計画	<p>○ホームページ(HP)の管理・運営</p> <p>協議会 HP のリニューアル</p> <p>2022 年度は下記の事項について協議し対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画投稿数が増えた場合の読み込み速度の改善</li> <li>・トップページの改修</li> <li>・その他、ユーザーや協議会員から寄せられた改善要望への対応</li> </ul>

#### 4. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業年間計画（2022年4月～2023年3月）

年月	項目
2022年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回びわ湖東北部地域連携協議会：(4/22)</li> <li>1) 協議会員の選任</li> <li>2) 協議会長の選出</li> </ul>
2022年6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回びわ湖東北部地域連携協議会（6/10）</li> <li>1) 2022年度びわ湖東北部地域連携協議会 事業計画案・予算計画案の承認</li> <li>2) 2021年度 監査報告</li> </ul>
2022年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回びわ湖東北部地域連携協議会（9/2）</li> <li>1) 2022年度 事業予算執行状況</li> <li>2) 事業計画について（新規事業承認）</li> <li>3) タイプ3（PF型）申請の承認</li> </ul>
2022年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回びわ湖東北部地域連携協議会（10月中旬）</li> <li>1) タイプ3（PF型）申請案について</li> <li>・ 高等教育のグランドデザインに関する検討会（10月中旬）</li> <li>・ 2021年度 活動成果発表（10月上旬）</li> </ul>
2022年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5回びわ湖東北部地域連携協議会（12月下旬）</li> <li>1) 2022年度 事業進捗状況について</li> <li>2) 成果報告会 兼 外部評価委員会について</li> <li>3) 成果報告書について</li> </ul>
2023年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果報告会および外部評価委員会の準備</li> </ul>
2023年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6回びわ湖東北部地域連携協議会（2月下旬）</li> <li>1) 2022年度 事業進捗状況について</li> <li>2) 成果報告書の承認</li> </ul>
2023年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果報告会 兼 外部評価委員会の開催（3月上旬）</li> <li>・ 第7回びわ湖東北部地域連携協議会（3月下旬）</li> <li>1) 2022年度 事業活動総括</li> <li>2) 来年度 事業活動方針</li> </ul>